

大阪府立農芸高等学校 資源動物科総合環境部 北畑 彩夏 他

一般的なアイガモ農法の収入は「栽培的」のみであるが、本校では鴨肉のブランド化とその流通により「畜産的」な収入が付加されている。アイガモ肉生産農家のブロイラー飼育に比べるとコストがかかり処理等にも労力がかかるのが課題であるが、動物福祉（アニマルウェルフェア）や環境保全など「社会貢献をする農芸鴨」として、流通面でも味や価格での競争ではなく、「農芸鴨を食べる＝社会貢献を応援する」という切り口でビジネス展開を進めている。更に、カモの命を「食」だけでなく「命の学び（食育）」として都会（大阪の地）であるからこそ「教育的」に展開しビジネス化をめざしたい。現在の教育ファームはほぼ無料に近い状態での実施であるが、今後高価格での展開を進めるにはまだまだ深い企画と運営力が必要と考える。しかし、収入源としての限られた農地を「生産する場所」から「生産しながら学ぶ場所」として活用し、それが持続可能な環境と産業の発展につなげたい。